

在宅障害児における療育上の問題点に対する支援： リハビリテーション専門病院と地域との関係

分担研究：発達の観点から見た療育指導の在り方に関する研究
分担研究者：小西行郎¹⁾
研究協力者：栗原まな²⁾、野田洋子²⁾、熊谷公明²⁾、家田満男²⁾

要約：当センターで行っている在宅精神薄弱児短期入所（母子短期入所）事業の概略をまとめ、在宅療育における問題点の把握とその対応について検討した。対象は平成5年度に母子短期入所（4泊5日）を行った92例で、入所に至った問題点と指導の内容を分析した。行動上の問題では固執、粗暴行為が多く、身辺処理が自立していない例は3/4を占めていた。入所後は、障害受容、障害の理解促進、身辺処理指導に力が入れられており、医療相談時には様々な相談を受け、かかりつけの医療機関で平素聞かないような内容も多かった。

見出し語：母子短期入所、在宅療育、リハビリテーション

はじめに：当センターは、県から2病院、6福祉施設、研究・研修所および看護学校の管理、運営等を受託し、身体障害者、精神薄弱児者、老人等広く心身に障害を有する人々に対し、医学、心理、社会、教育、職能等の面から、治療、総合評価、支援、訓練等を行い、さらに地域福祉医療への協力を行っている。

その一貫に、「地域福祉対策事業」があり、短期入所訓練事業と地域巡回指導事業、一時利用事業に細分されている。

短期入所訓練事業には在宅精神薄弱児者一日入所、在宅精神薄弱児短期入所（母子短期入所）、在宅重症心身障害児者親子教室があり、地域巡回指導事業には精神薄弱児通所機関等巡回指導と在宅重症心身障害児者療育訪問指導がある。その中から最も力を入れている母子短期事業について分析を行い、在宅療育における問題点の把握とその対策について検討した。なお本事業は県単独事業である。

研究対象および方法：

母子短期入所は、在宅の知的障害児およびその保護者を共に短期間入所させ、児童の行動観察および指導を行い、さらに保護者に対して、知的障害児を正しく理解するための相談、助言、指導を行うことを目的としている。小児科を中心として、健康管理室、栄養課、言語科、心理科等病院部門の各職員の協力のもとで、地域福祉課が児と保護者の個別または集団指導を実施している。4泊5日の入所を原則としているが、過去に入所した例のフォローアップ入所は1泊2日としている。

対象は、平成5年度、地域巡回指導により、地域の各施設を通して入所した92例である。

方法は、平成5年度の母子短期入所事業の概略のまとめおよび入所者に行ったアンケート調査の結果を集計し、在宅療育における問題点の把握とその対応について小児科の関わりを中心に検討する。

結果：

1. 入所回数、参加児者数

1泊2日入所11回52組、4泊5日18回92組、合計29回144組の入所を実施した。4泊5日入所が主体で、対象児の70%が未就学児であることから、幼児中心のグループ入所9回、学齡児グループ入所4回および混合グループ入所5回を行った。また父子参加による1泊2日入所を1回実施し、父親の療育相談を行った。

(単位：人)

区分	月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
訓練回数	入所	0	3	3	3	3	3	3	4	0	2	3	2	29
	退所	1	3	3	3	3	2	4	3	1	2	3	1	29
参加児童数	入所	0	10	12	16	20	17	18	21	0	9	11	10	144
	退所	5	10	12	16	20	12	23	15	6	9	11	3	142
参加保護者数	入所	0	10	12	15	20	15	16	20	0	8	11	10	137
	退所	5	10	12	15	20	10	21	15	5	8	11	3	135
参加児童延人数		10	41	45	68	82	56	77	60	18	36	30	43	566
参加保護者延人数		10	41	45	63	82	49	67	58	15	31	30	43	534
関係者延人数		12	7	12	16	75	8	9	20	0	0	12	40	211
計		32	89	102	147	239	113	153	138	33	67	72	126	1,311

2. 関与スタッフ

- 福祉部地域福祉課所属7名を中心に以下のスタッフが協力。
- 小児科医3名：初日医療面接、身体健康チェック、母親グループ指導
- 言語療法士3名：個別言語相談
- 臨床心理士3名：心理相談、助言
- 看護婦2名
- 栄養課1名

3. 母子短期入所プログラム

小児科の関わりは、まず初日の入所時の個別医療面接にはじまる。病歴の聴取、入所児の身体・健康チェック、入所目的、母親からの相談に対する返答などを行う。その後、3ないし4日目に母親グループ指導を行う。約2時間かけて行うが、内容は疾患や障害児の扱い方についての講義、質疑応答である。入所後当科外来でのフォローを開始する例もあるが、ほとんどは地域でのフォローにつなげている。

	1日(月)		2日(火)		3日(水)		4日(木)		5日(金)	
	児童	親	児童	親	児童	親	児童	親	児童	親
8:00-9:00	起床 自由時間									
10:00	入所式	行動観察	グループ	グループ	グループ	グループ	グループ	グループ	グループ	グループ
10:30	行動観察	入所説明	観察	学習	指導	学習	指導	学習	指導	学習
11:30	子供担当との話し合い									
12:00	昼食 自由時間									
14:00	身体測定	医療面接	グループ	グループ	グループ	グループ	グループ	グループ	グループ	グループ
15:00	行動観察	入所面接	指導	学習	指導	学習	指導	学習	指導	学習
16:15	子供担当との話し合い									
17:00	夕食 自由時間									
20:00	就床	就床	グループ	グループ	グループ	グループ	グループ	グループ	グループ	グループ
23:00	就床	就床	学習	学習	学習	学習	学習	学習	学習	学習

1) 福井医科大学小児科
Fukui University,
Dept. of Pediatrics

2) 神奈川県総合リハビリテーション小児科
The Kanagawa Rehabilitation Center,
Dept. of Pediatrics

4. 4泊5日入所者92例の状況

・診断名では精神発達遅滞を有する例が大多数であるが、それに次いで自閉症が多い。
 ・身体障害を合併している症例はそれほど多くはない。
 ・行動上の問題では、固執と粗暴行為がともに28%と多く、日常生活の中でそれらの行動に困っていることを訴えている。自傷、情緒不安定、多動、肥満等が次ぐ。
 必要に応じて、今後の処遇への対応が実施。
 ・精神発達レベルでは、軽度、中度、重度が同程度入所している。
 ・身辺処理能力では、自立が1/4、残りの大部分は半介助である。中でも排泄の未自立に対する訴えが多かった。
 ・移動能力では、身体障害合併例が少ないことにより、ほとんどが歩行、走行が可能。

診断名

診断名	児童数
精神発達遅滞	33
てんかん+MR	10
自閉+MR	29
CP+MR	2
結節性硬化症	1
ダウン症候群	5
言語発達遅滞	3
髄膜炎後遺症	2
二分脊椎+MR	2
ソトス症候群	1
ブラダー-ウイリー-症	1
小人症	1
染色体1番異常	1
無酸素性脳障害	1
計	92

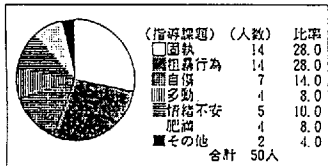
指導項目	件数	相談指導内容	件数 内訳	年齢層別件数								
				0 37	4 8	7 9	10 12	13 15	16 18			
①行動観察評価	18	行動観察等による総合評価	18	5	9	2	2					
②身辺処理指導	14	食 強度の偏食の改善指導	3	1	2							
		事 スプーン操作等の訓練	3	1	2							
		排泄・排便の訓練	8	3	2	1	1	1				
		睡眠等生活リズムの形成										
③問題行動の改善	2	他傷行為の軽減	1	1								
		金銭問題行動の改善	1		1							
④障害の理解促進	20	子供の状態の理解と、対応方法の指導	20	5	10	3	1			1		
⑤障害受容プロセスへの援助	24	障害受容プロセスへの援助	24	6	12	1			2	3		
⑥道路処遇相談	7	学校選択に伴う相談	3		2		1					
		施設利用に関する相談	4							2	2	
⑦障害環境の相談	7	兄弟に関する相談	7	2	5							
⑧医療専門相談		医療・言語等に関する相談									[別表参照]	
計			92									

6. 医療専門相談

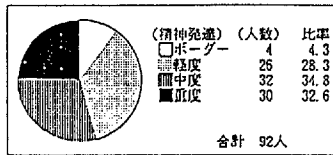
相談内容は、様々であるが、平素受診している医療機関では聞けなかったことについての相談が多い。個別の内容ではあっても、グループ指導の中で質疑応答し、それぞれの母親の役にたつよう工夫している。

指導項目	件数	相談指導内容	件数
⑧医療専門相談	21	医療精査に関する相談	2
		治療に関する相談	2
		障害予後その他の不安	6
		障害原因に関して	2
		てんかんに関する相談	4
		薬等健康管理に関する相談	2
		第二子希望について	1
言葉の育て方の相談	2		

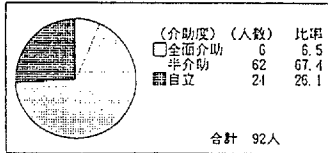
(行動上の問題)



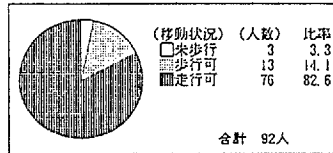
(精神発達レベル)



(身辺処理能力)



(移動能力)

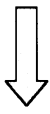


5. 指導内容

障害受容、障害の理解促進に対する指導が最も多いが、行動面の評価と身辺処理指導（特に排泄指導）が中心であった。
 障害児をもつ母親が集団で5日間寝食をともに過ごすということは、障害受容、障害の理解促進の面から非常に有益であり、5日間の入所を終えた後、母親同士のつながりが続くことが多い。

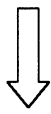
考察:

地域福祉課は昭和54年に設置され17年を経過する。心身障害児者の在宅福祉の向上をめざし、当センターにおける「ともしび運動」の一貫として事業が展開されてきた。近年ますます在宅での療育の重要性が強調されるようになり、本事業の役割が再認識されてきている。
 母子短期入所の対象年齢は就学前が約7割を占めるが、一方で学校不適応、思春期問題をかかえた学齢児の入所依頼も少なくない。入所児は大部分が精神発達遅滞を有する児であり、それに伴う行動上の問題や身辺処理の指導を希望して入所していた。しかし実際の指導内容をみると、それらの主訴の指導よりは、障害受容、障害の理解促進に力がいられていた。そして終了時の母親の感想では、障害の受容にまでは至らないが、障害の理解に役立ったり、他の母親と話し合え、知り合えたことが役立ったとの意見が多かった。母子短期入所はこうした対象児を取りまく家族や関係者に対する援助の要請が特徴であり、在宅療育の一助となっている。
 来年度は、この事業を経験した家族に対するアンケート調査から家族の抱える悩みとその対応法について検討を行いたい。さらに最終年度は、母子短期入所を行った家族に対するその後のフォロー状況を調査し、在宅障害児の療育上の問題点の把握と支援について考えていきたい。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:当センターで行っている在宅精神薄弱児短期入所(母子短期入所)事業の概略をまとめ、在宅療育における問題点の把握とその対応について検討した。

対象は平成5年度に母子短期入所(4泊5日)を行った92例で、入所に至った問題点と指導の内容を分析した。行動上の問題では固執、粗暴行為が多く、身辺処理が自立していない例は3/4を占めていた。入所後は、障害受容、障害の理解促進、身辺処理指導に力が入れられており、医療相談時には様々な相談を受け、かかりつけの医療機関で平素聞かないような内容も多かった。